



不審者対応避難訓練



今回は、児童安全確保と連絡体制の確認(教員)、放送を静かに聞く・緊急時自分の身を守る行動をする。(児童)の目的をもって訓練を行いました。

みなさんの真剣な態度に警察の方からはお褒めの言葉をいただきました。

「〇〇水道です。」実際に業者を装って校舎に侵入した事例を参考に、訓練は始まりました。警察の方は、学校以外でも金融関係などさまざまな施設での訓練をされており、本当に不審者なのかと職員もはじめは戸惑ってしまいました。「通報する」「校内放送で緊急を知らせる」のタイミングから勉強になりました。※「通報」や「放送」は、土足で入るなど侵入者と怪しんだ時点で行うこと。(パトカーが到着するまでに数分かかるので、通報は間違えてもいいから早めにする。)

目をみて挨拶することも
防犯になるそうです。



教室では、ひとけを消すため、しゃべらずしゃがんで、電気を消し、カーテンを閉めました。不審者対応の先生のクラスは、安全確保のためベランダを伝って隣の教室へ合流し、不審者が退去するまで教室待機し、その後避難しました。



1階での、職員と不審者とのやりとりを校内放送を通して教室でも聞き取れる場面を作り、不審者がいることを知らせ、緊張した訓練になるようにしました。

先生も放送を聞きながら、子どもたちに静かに隠れる、素早く行動するなどの的確な避難指示の訓練をしました。

警察の人も教室での静かに待機している様子や移動の時の様子、職員の対応を観察され、訓練後に児童全体と職員に対して、ご高評・反省をいただきました。

簡単な護身術を教えてくださいました。

※手を捕まれたら・・・両手を組み、足を踏ん張って思い切り、上に振り上げる。

不審者犯罪の多くは下校時に発生しているので→「いか」ない、「の」らない「お」お声を出す、「す」ぐに逃げる、「し」らせる、「いかのおすし」で、自分の身を自分で守りましょう。

※犯人対応の時の注意点:「言葉かけ(刺激せず、しっかり観察)」「犯人との位置関係・間合い(襲われない距離を保つ)」、「さすまたやパイプ椅子の使い方(威嚇する、攻撃すると逆効果もある)」※不審者が校地内から出た時:「車の番号、逃走した方向等、職員同士声を出し合って確認」「再来校を防ぐため戸締まり確認」「遺留品がある場合には、むやみに触ったり移動したりしないこと」